



福井市自然史博物館

# 博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



東尋坊近くの安島海岸で見られる色とりどりの石ころ。黒光りしている石は黒曜石。赤色の石はジャスパー。半透明の石は玉髄。縞模様の石は流紋岩です。(撮影：特別館長 吉澤康暢)

## 福井の自然史情報

### 写真展 東尋坊・雄島・越前松島の魅力

越前加賀海岸国立公園内にある東尋坊・雄島・越前松島は、年間134万人もの観光客が訪れる福井県きっての観光地です。特に高さ約25mの巨大な柱状節理が海面から林立する東尋坊は見事です。同時に、多様な火山岩や地層が観察できる魅力あふれる場所でもあります。東尋坊は昭和10年（1935年）に国の天然記念物および名勝に指定されています。



後面に関連記事があります。

# 足羽山

# ビジターセンターの見どころ紹介

9月15日、自然史博物館内に「足羽山ビジターセンター」がオープンしました。

ビジターセンターは、足羽山を訪れる市民や観光客に足羽山の自然、文化、歴史等について情報を発信、紹介していくことを目的としています。



足羽山の魅力を紹介するにあたり、壁面マップは2つ設置しました。1つは観光情報を掲載したマップ、もう1つは自然情報を中心に掲載したマップです。観光情報を掲載したマップには、継体天皇像や足羽山公園遊園地などの各施設や史跡スポット、飲食店を紹介しており、イベント情報や飲食店のおすすめメニューなど、利用者が自由に書き込むことができます。

もう一方の自然情報を掲載したマップには、自然散策道「ブナの道」や「どんぐりの道」、福井市天然記念物の植物などを掲載しています。植物や昆虫、鳥などの目撃情報を職員や利用者がマップに自由に書き込むことができ、そこで共有された情報を自然観察の参考にしてもらうことができます。



そのほかにも、動物の毛皮などの実物標本に直接触れることができるハンズオンコーナー、小さな生き物や植物の標本を拡大して、その細かな様子を観察できるマイクロSCOPEなども設けており、福井市の中心部にありながら様々な動植物が生息し、豊かな自然に恵まれた足羽山の魅力を感じることができます。



ビジターセンター中央のテーブル付近は、ワークショップコーナーとして足羽山の植物によるクラフト体験などを行っていくほか、足羽山の自然観察の拠点として、館外活動の事前説明場所としても活用していきたいと考えています。



また、「白山テラス」は、全館飲食禁止だった博物館内において、唯一飲食可能なスペースとなりました。ビジターセンターと併せて無料で利用でき、気軽に眺望を楽しめる休憩スペースとしてその利便性が向上しました。



このビジターセンターは、博物館側から一方向に情報を提供するものではなく、利用者からも足羽山の魅力に関する情報を収集していくことが特色の1つに挙げられます。そして、博物館と利用者の双方向の情報提供の中で、展示の内容についても随時更新していくことが期待されます。足羽山の魅力を再発見し、さらには高めていくための施設として、今後「足羽山ビジターセンター」が広く活用されるよう取り組んでいきたいと考えています。  
(主査 坂森貴生)



## ハンズオンコーナー

### 「モミの枝の輪切り標本」



この木の輪切り標本は、当館前の天魔池の西側に生えているモミの枝です。2017年10月に発生した台風第21号の暴風により枝が折れてしまったため、その枝の一部を輪切りにして磨いたものです。モミは、足羽山では照葉樹林に生えているマツ科の針葉樹で、照葉樹林と共に社寺林の樹木として昔から切られずに残されてきました。モミの枝の輪切り標本の年輪を数えて、足羽山の自然の歴史を感じてみませんか。(学芸員 中村幸世)

## ハンズオンコーナー



### 「鳥の翼」



みなさんは、鳥の広げた翼をまじまじと見たことはあるでしょうか？普段、広がった鳥の翼を見る機会はなかなかありません。そこでハンズオンコーナーに鳥の広げた翼の標本を展示しました。翼を手にとってじっくり観察すると、鳥の翼の美しい模様が羽一枚一枚の模様が集まってできていることや、規則正しく重なり合った羽が翼を形作っていることなど、色々なことが分かります。ぜひ本物の翼に触れてみてください。(学芸員 出口翔大)

## ハンズオンコーナー

### 「七ツ尾口坑道跡の動物たち」

世界でも足羽山でしか見つかっていないアスワメクラチビゴミムシ、アスワホラヒメグモ、アスワマシラグモ。当館では、これらの生態解明を目指して現在足羽山麓の七ツ尾口坑道跡で調査を行っています。ハンズオンコーナーでは、これらの生物の標本をアクリル封入標本や液浸標本として手に持って間近に観察できます。加えて、調査で得られた生態動画もご覧いただけます。世界でも足羽山でしか見つかっていない生物を、ぜひ間近に観察してみてください。(学芸員 梅村信哉)

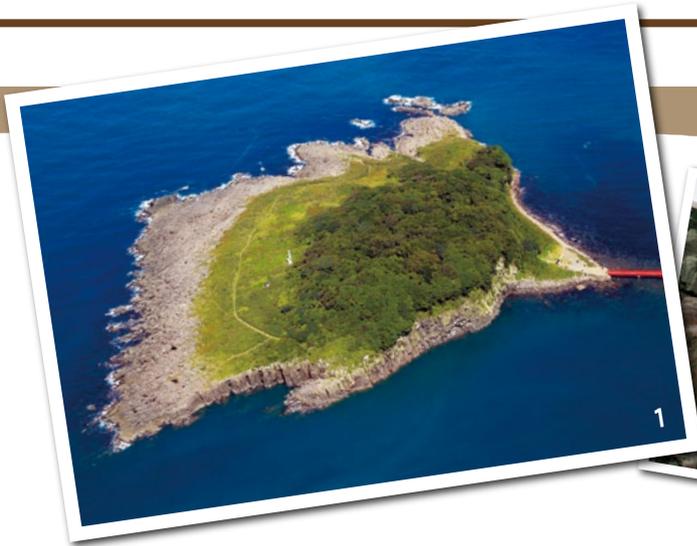


アスワメクラチビゴミムシアクリル封入

### 足羽山生物図鑑

足羽山にはどのような生物がいるのか。今の季節、足羽山ではどんな動植物が見られるのか。そんな疑問に答えるため、ビジターセンターでは「足羽山生物大図鑑」を設置しました。足羽山に棲む主な動植物の特徴を写真つきで解説しており、タッチパネルを操作することで、見られる季節や分類群ごとに検索することができます。現在、約270種の動物と、約100種の植物を紹介しており、今後も随時更新していく予定です。(学芸員 有馬達也)





とうじんぼう

おしま

えちぜんまつしま

## 写真展「東尋坊・雄島・越前松島の魅力」

東尋坊・雄島・越前松島は日本海の形成に伴う火山活動の末期に活動した火山群で、岩質もデイサイト（東尋坊）、流紋岩（雄島）、玄武岩質安山岩（越前松島）と変化があり、大きさや形態など変化に富む柱状節理群や板状節理群が見事です。この地域は、日本列島はもとより世界的にみても一大地質景勝地と言えます。これらは、地下深部で形成されたマグマが地表近くまで上昇し冷え固まった火山岩です。マグマは地表に溢れ出ることなく、先に堆積している堆積岩中に貫入し、地中でゆっくり冷え固まったため、柱状節理は太く大きなものとなりました。その後、大地が隆起することによって波浪の侵食を受け、現在の海食崖の姿になったものと考えられます。

写真展でご紹介する画像は、幾度となく当地に通い撮影した地質現象の記録です。ある時はセスナ機をチャーターして上空から眺めたり、また、ある時は漁船で海上から岩層に直接手を触れて観察しました。寒波がやってくるときは積極的に海岸に通い撮影に臨みました。めったに積もらない東尋坊の岩場の雪、けあらし、寒波滝、夕暮れ時の日本海の雲、虹、不思議な形の柱状節理、岩場に咲く可憐な花園など、数ある写真の中から印象に残っている20点を厳選して展示しました。写真から、東尋坊・雄島・越前松島の魅力がお伝えできれば幸いです。

（写真・文：特別館長 吉澤康暢）



1. 火山岩と照葉樹林とのコントラストが美しい上空から見る雄島
2. 東尋坊“大池”の高さ25mの柱状節理を越える大波
3. 越前松島の柱状節理が横倒しになった天然の階段
4. 越前松島の柱状節理の五角形～六角形の断面形

### 《あとがき》

今号では、只今開催中の吉澤特別館長の写真展「東尋坊・雄島・越前松島の魅力」と、9月15日に当館1階にオープンした「足羽山ビジターセンター」の話題を取り上げました。写真展では、吉澤特別館長が長年に渡って取りためてきた膨大な写真の中から、選りすぐりの20点を展示しています。大形写真パネルから伝わってくる名勝の美しさと迫力を、ぜひ感じてみてください。

また「足羽山ビジターセンター」では、足羽山の自然や施設などの旬の情報を発信しています。無料スペースとなっていますので、足羽山に来られた際には、ぜひお立ち寄りください。  
（中村）

### 《交通案内》

#### 【電車】

- JR 福井駅から徒歩 30分
- 福井鉄道福武線 足羽山公園口駅・商工会議所前駅 各徒歩 20分

#### 【バス】

- 京福バス：清水グリーンライン（74系統）足羽山公園下バス停（あじさいの道登る）、不動山口バス停（蔵島神社登る）各徒歩 10分
- コミュニティバスすまいる：西ルート（足羽・照手方面）愛宕坂バス停 徒歩 10分

### 《ご利用案内》

- 開館時間 ● 午前9時～午後5時15分（入館は午後4時45分まで）  
休館日 ● 月曜日（祝日は開館）、祝日の翌日、年末年始  
入館料 ● 高校生以上 100円（20名以上の団体は半額）  
中学生以下、70歳以上、障がい者および付添の方は無料

